

日中友好の懸け橋

# 孫文と宮崎滔天 絵画資料展

～絵画でつづる孫文の功績と歴史資料で顧みる二人の友情～

日時：2010年11月20日(土) 11:00～18:00 / 21日(日) 9:00～16:30

場所：荒尾総合文化センター(小ホール) **入場無料**

孫文の生涯と功績を物語風に分かりやすく説明した上海孫中山故居記念館所蔵の絵画60点と荒尾市宮崎兄弟資料館所蔵の歴史資料を2日間限定で展示します。

孫文



滔天



孫文と黄興



1913年 荒尾の宮崎家を訪問した孫文



1905年中国同盟会成立

**【11月20日(土)】 荒尾総合文化センター大ホール **入場無料****

13:00 記念式典

13:20 解説「辛亥革命と宮崎兄弟」

宮崎兄弟の生家施設 施設長 安田 信彦氏

13:45 記念講演

「孫文と九州の歴史を生かした中国との交流の可能性」

九州観光推進機構会長 石原 進氏 (JR九州会長)

15:00 閉会

### 会場アクセス



荒尾総合文化センター  
☎ 0968-66-4111  
無料駐車場(363台収容)

主催：荒尾市日中友好促進会議、上海市人民対外友好協会、上海市孫中山宋慶齡文物管理委員会  
協力：荒尾市宮崎兄弟の生家施設、上海孫中山故居記念館、荒尾市教育委員会、財団法人孫中山記念会  
後援：中国駐福岡総領事館、荒尾市、荒尾市議会日中友好促進議員連盟、熊本県、熊本県日中協会、JR九州、九州観光推進機構、西日本新聞社

お問合せ 荒尾市日中友好促進会議事務局 TEL 0968-63-1274

〒864-8686熊本県荒尾市宮内出目390番地 荒尾市役所政策企画課内



宝くじは  
豊かさ築く  
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。

1800年代終わりから1900年代初め、アジアは西欧列強諸国の圧力にさらされていた。中国大陸では、満州族率いる清朝が弱体化する中、中国・アジアのあるべき理想を高らかに謳いあげた革命家・孫文が登場する。孫文は1895年の「広州蜂起」以降、不屈の闘志で幾度となく蜂起を繰り返す。そしてついに、1911年に辛亥革命が勃発し、秦の始皇帝以来2000年以上続いた皇帝制度に終止符が打たれ、アジアで初の共和国が誕生。革命の先導者として、孫文は臨時大総統に就任する。辛亥革命へと至る道のりは、アジアのあるべき姿を共通理念とする日本と中国の男達の友情物語でもあった。

孫文と宮崎兄弟

八男  
**滔天** とうてん  
(1871~1922)

孫文を助け、革命に挺身した侠の人

滔天、孫文と初めて会う

1896年の彌蔵の死後、滔天は、横浜で彌蔵を世話していた陳少白の紹介で、1897年9月、孫文と横浜で出会うこととなる。

滔天、孫文を初めて知る

1897年6月、民蔵は滞在先の米国で読んだ英字新聞で孫文を知り、その記事を荒尾に送り、滔天に孫文の存在を伝えた。その後も、米国から、孫文との連携を強く滔天に説く手紙を出した。

滔天は、妻の実家である前田家や兄民蔵などの協力を得て、孫文の同志として革命に生涯をささげた。孫文は、日本国内での資金・武器調達に関する全権委任状を滔天に与えた。

彌蔵の行動が滔天と孫文を結び付ける

民蔵、孫文の民生主義に影響を与える

民蔵の「土地は人類共通の財産」という思想は、孫文の民生主義に少なからず影響を与えた。滔天と共に孫文を支援し続け、孫文の最後の病床を見舞うことを許された四人の日本人の一人である。

彌蔵は、中国での革命から全アジアの自由民権革命を目指し、まずは中国人になりきろうとして、辮髪を結び、名前を管仲甫と改め、横浜の中国商館で働いた。そこで、孫文と同志である陳少白と出会ったが、志半ばの29歳で病没する。

六男  
**民蔵** たみぞう  
(1865~1928)  
土地復権を生涯の使命とした哲人

**孫文** そんぶん  
(1866~1925)

七男  
**彌蔵** やぞう  
(1867~1896)  
理想の国を中国革命にみた思想家

記念講演

演題：「孫文と九州の歴史を生かした中国との交流の可能性」

講師 石原進氏 (いしはらすずむ)



〈講師プロフィール〉

1945年4月30日生まれ (65歳) 東京都出身  
現職：J R九州代表取締役会長、九州観光推進機構会長 ほか多数

～ 略 歴 ～

昭和44年6月 東京大学法学部卒業  
昭和44年7月 日本国有鉄道入社  
平成14年6月 J R九州代表取締役社長就任  
平成21年6月 J R九州代表取締役会長就任 (現)  
平成22年5月 九州観光推進機構会長就任 (現)